

宮崎県歴史の道調査報告書

肥後街道

1979

宮崎県教育委員会

目 次

1. 肥後街道の特色	1
2. 肥後街道の歴史	1
3. 肥後街道	2
4. 街道沿いの文化財	5
5. 写 真	1

序

宮崎県は、東は日向灘・北・西・南は山岳で県を境する地勢のため、かつては交通不便の地とされていましたが、戦後の急速な発展にともない、本県もあらゆる面で近代化の波を受けてきました。

そのため古来から人や文物の交流の舞台となつた道も年々姿を変え、沿道の交通関係遺跡は姿を消そうとしております。今のうちに街道調査を行い、街道の歴史的背景、果たした役割、現状等を明らかにしようと「歴史の道調査」を、昭和52年度に県北5街道、昭和53年度に県南4街道の調査を実施し、引き続き本年も確摩・肥後街道と諸塙間道の調査を実施いたしました。

本報告書は、街道の特色・歴史・様子・及び道沿いの文化財や遺跡の解説、及び街道地図からなっています。

短期間になされた調査ですので、不備な点もあるかと思いますが、本県の旧街道保存、あるいは交通史の研究のための基礎資料として御活用いただければと思っております。

最後に、お忙がしいなか、お骨折りいただいた調査員の方々、並びに調査員に御協力くださいました地元の方々に厚くお礼申しあげます。

昭和55年3月

宮崎県教育委員会

教育長 四本 茂

例　　言

1. 街路名

江戸時代にあっては、道路の規模により街道と往還を使い分けていたようであるが、現在往還は用いないのですべて街道とした。

また、街道は、厳密にいえばいくつかの往還に細区分される。

しかし、すべてをあげる必要もないで、距離も長く中心となるものを代表させた。

2. 街路の概要説明

街道の詳細な記述は、街道沿いの交通関係遺跡の解説に譲り、ここでは街道の持つ歴史的背景、街道の果たした役割、街道の現状等を概説的に記した。

3. 街道沿いの交通関係遺跡解説

(1) 各々の解説の前半に、遺跡及び遺跡周辺の状況、遺跡と遺跡間の状況の過去から現在にわたって述べ、後半に遺跡そのものの解説を付した。

従って個々の解説をとおして読めば、起点から終点迄街路の全容が把握できる。

(2) 街道沿いの主な集落には、戸数、集落間の距離又は起点からの距離を記したが日向地誌によった。地誌は明治8年の調査をもとにしている。

(3) 集落間の距離、起点からの距離で、何里何町と記してあるのは日向地誌によるもので、他は地図から割出した距離であるので正確は期しがたい。一応の目安としていただきたい。

(4) 交通関係遺跡の配列はほぼ道順に沿っているが、間道あり脇道ありで複雑をきわめるので、街道図を参照していただきたい。

1. 肥後街道の特色

今回肥後街道として調査したのは、佐土原を起点とし、本庄・綾・野尻・小林・飯野・加久藤牧の原を経て熊本県境に至る約80kmの道である。

佐土原から薩摩・肥後両街道の分岐点、本庄付近までは薩摩街道、それ以西を肥後街道といっていたようだが、肥後の国球磨へ抜ける道であるので、球磨街道という呼び方もあるようである。

肥後側からは、領境から紙屋付近までを西目街道と呼んでいた。

街道の道幅はほとんど2間幅であったが、町中あるいは重要な箇所は2間半幅のところもあったようである。

街道沿いの文化財については、神社・寺院・石塔等が多く、時に後・紙屋間には大将軍廟が数多く見られる。また、西都市今市、国富町伊佐生・綾町二反野原、野尻町塗野原・池の原・野尻西町・追分・大塚・小坂・野々崎・瀬戸の口、小林市小林競馬場・十三塚、えびの西の原等には、山中に松の古株が見出され、松並木の名残りをとどめている。又、国富町三名渡し、瀬越渡し、野尻町塗野原には、街道脇にヤンチク竹林（和名一蓬萊竹）が残っている。

この街道で、日向側から西進するには霧島山が大きな目標となった。一里塚も霧島山がよく望める見晴らしのよい場所に設けられている。現在原形をとどめているのは、野尻町の塗野原と池の原の一里塚（何れも県指定史跡）であるが、綾町二反野原にも残っている。また、えびの市飯野にも、市役所保存の元標識引帳によると一里塚が存在したらしく、他の場所でもこの度の調査で1~2一里塚の存在が明らかになっている。

街道中、険路といわれているところは、綾町宮之谷から野尻町二反野までの間、野尻町瀬越から

塗野原一里塚の間、えびの市加久藤権田閑所跡から県境までの間である。これらの険路の大半は険道と化し、雨水に洗われてえぐられた箇所が多い。特に、紙屋・二反野間や球磨越の道は急坂のためそれが著しい。

球磨越の道は、わざと難所に道を通したらしく國境には球磨口番所が設けられていた。

しかし、荷物の運搬道としては、えびの市坂元から高野越の道が別にあり、明治初年の天草からの移民がこの道を下り飯野に入っている。また、西南の役には西郷軍が人吉からこの道を下り撤退している。

2. 肥後街道の歴史

肥後街道は佐土原藩領・高鍋藩領・天領・鹿児島領の四領を通過するので、街道沿いの神社・寺院・民家のつくりにそれぞれ違いが見られる。しかし、共通していえることは、中世に於ける伊東氏の版図が広かったのでその影響が石造文化財等に色濃く残っていることである。

この街道に関する近世の歴史を述べてみると、天正3年（1575）5月、伊東と島津が命運をかけた木崎原大合戦で、伊東方が破れ痛手を受け路傍に倒れる者自刃する者を見捨て、落武者が都於郡まで敗退していった。国富町伊佐生地蔵寺や、西都市都於郡大安寺には木崎原合戦の戦死者の墓が残る。

伊東氏の威勢は日増しに落ち、天正5年には高原城が陥落。高原城危しの報で伊東義祐入道は、この街道を西進し紙屋城まで兵を進めたが、高原城のみならず野尻城まで陥落との報に急撫都於郡城へ退いている。

翌天正6年に島津勢は豊後の太友軍を迎撃つ

ためこの街道を東進し、高城河原（木城町）で打ち破っている。しかし、9年後の天正15年には豊臣秀吉の西征軍、羽柴秀長の率いる20万の大軍が高城で島津勢を破り、この街道を通って野尻まで押し寄せた。多勢に無勢で勝算なしと判断した島津方は、野尻陣原で和議を結んでいる。

江戸幕府が参勤交代の制度を確立すると、島津氏はこの街道を通り江戸へ向っている。綾町二反野原に殿様の休憩場といわれる茶屋跡・西都市都於郡に殿様に差上げるお茶の水を汲んだという泉が残っている。

降って明治10年の西南の役では、この街道に沿って数々の戦がくり返された。保墨の跡等が残っている。特に激戦地といわれるのは、蕨野・小林・岩卒礼城・天ヶ谷・紙屋付近であった。

古くは、土持草もこの道のある部分を通りいたと思われる。

最後にこの街道沿いの史跡について述べてみると・城跡・古戦場の他には地下式横穴古墳が多い。六野原・本庄・綾・野尻・小林・えびのに分布し南九州獨得の墓制で5~7世紀の築造といわれている。

又、島津藩では淨土真宗を禁制としたため、隠れ念佛の遺跡が幾々に所在している。

3. 肥後街道

(1) 佐土原から綾へ

佐土原地区公民館のある所が金柏寺跡でありここが肥後街道の起点である。追手門前から五日町・上中小路・大小路・春田を経て三差路を西へ進む。高月院島津墓地の北側を通り、田園道から坂道を上る。仲間原へ上る坂の途中の北側台地に茶屋跡がある。ここからは、佐土原城

跡や佐土原の町を通して日向灘が一望に見渡せる。

茶屋跡から約3.5kmで都於郡中学校前に着く。ここを南に下ると約1kmで黒貫寺である。街道は中学校前をそのまま進み都於郡の町の中心地に出る。町の中心から約800m東の丘の上に大安寺がある。町の中心の北方の丘が都於郡城跡である。

町の中の坂を登って約1.5km進むと西側の小高い所に花立寺跡がある。ここから霧島の神を拝んだ寺のあった所であるが、今はみかん畑になっている。更に少し進むと南側に池があり、その上が八幡神社で、永禄4年（1561）建立の六地蔵舎がある。ここから約1.5kmで今市に着く。この付近には松並木があったと言われている。

今市の南の八木佐野公民館の下が茶屋跡で、殿様が茶屋で休まれた時に用いた水の湧き出でいる前門水の泉がある。

今市から約1.5kmのゆるやかな坂になった所に戻門跡がある。西南に走る街道から直角の北西方向に設けた引込み道で、佐土原藩の番所跡である。戻門跡から約300mほど進むと、県道西都・高岡線と交差するが、更に30mぐらい進んだ竹藪の中に佐土原藩境界石柱が立っている。

藩境石柱を過ぎると六野原古墳群のあった畠地を通り、約1.6kmで伊佐生地藏寺と三名籠の分岐点に着く。ここには大きな松があったと言われる。この付近の東側・西側の丘陵が伊佐生城跡であり、この城跡にはさまれて伊佐生番所があった。戻門もあったと言われる。

ここから麓に下り三名籠の下流を渡って本庄へ向って進むと六日町に出る。県道宮崎・須木線を渡るとすぐ南に旧街道が並行している。こ

の街道の東約600mに満福寺がある。西へ進んで行くと義門寺、更に進むと剣柄稻荷神社がある。

再び宮崎・須木線を渡ると本庄中学校前に出る。中学校の南が宗久寺である。中学校前から約2.5kmで森永に着く。北側に森竹神社がある。西進して綾北川を渡り約2.5kmのところが郷崎である。この付近には松並木があったといわれている。ここから南側の旧街道を進むと約600mで八坂神社があり、更に200mぐらいいの地点に延喜式駅跡の亞那駅跡石柱が立っていて、本庄川北岸の中川原公民館東に大將軍神社がある。

(2) 綾から野尻へ

亞那駅跡石柱から南下して本庄川の十ヶ所渡を越え宮之谷にはいると、元宮神社がある。綾神社の元宮で、綾神社は200年ほど前ここから遷座されたと言われている。元宮神社から、今は山道となってしまった旧街道を進むと、約1.3kmのところに一里塚跡がある。ここから約500m行ったところに茶屋跡があり、すぐ近くの二反野公民館前から道は山の中にはいり人跡もさだかではないが、山中に松並木跡の古跡があり旧街道の面影が残る。公民館前から約1.5kmで瀬越渡に出る。渡り口にはキンチク竹藪が茂っている。

田之平・瀬越道にて、北へ約600m、南へ約600mのところにそれぞれ大將軍神社がある。

瀬越から街道は九十九折の険道となる。瀬越渡から約2km進むと漆野原一里塚が見える。そこから約1km進むと、街道の南800mぐらいいの所に紙屋城跡がある。そのまま国道268号線にて、紙屋大橋の手前から谷に下り秋社川を渡り紙屋小学校北側に出る。ここに紙屋間

所跡がある。ここから紙屋旧町を通り、下りかけた所に石敢当がある。

紙屋郵便局の付近から上の原にて、約2km西へ進むと池之原一里塚がある。そのまま西へ進み今別府で国道268号線にて、萩の茶屋から国道に沿った南側高台の藪の中を進み再び国道に出る。国道をよこぎり石瀬戸川を渡って天ヶ谷への山道にはいると約1.5kmで天ヶ谷涼み場へ着く。この間、石瀬戸から天ヶ谷までは九州自然歩道の一環として利用されている。涼み場から高松城跡(標高246m)の南麓の道をたどり野尻湖ダムに出ると、北側に戸崎城跡がみえる。

国道268号線から松山にて、戸崎馬場を経て新地馬場に沿い光運寺の角に出る。この南角には六地蔵堂がある。ここから南約1kmに野尻城跡、北約500mに高都万神社があり、東約600mに野尻石窟仏がある。西へ約500m進むと伊集院忠真の五輪塔がある。ここを西へ約700m進むと三差路になる。南側の道は高原町、三差路をそのまま西へ進むと小林市である。この付近に九塚古墳があり、大塚原付近までは陣原と呼ばれ、豊臣秀吉の九州征討の折、部将羽柴秀長が陣を構えたところである。その小坂を下ると大脇渡で、この付近は昔は池だった。小坂をめぐって西から北へ長池。下の池と呼んでいるが、日向地誌には入水池とある。

(3) 野尻から小林へ

街道はこの付近から国道268号線のやや北側を通り谷を下ると奈良塚の南前に出る。この丘には馬頭観音や田之神が祭ってある。南側は国道をへだてて栗須小学校である。小学校の北西約700mに薬師堂と長倉四郎兵衛之墓があり、その北約500mに八尾神社がある。

出口商店前から国道268号線の北側を通り、

上原自動車修理工場の横からまた国道にかかる。この付近から約500mは道路両側に老松のそびえる松並木があったと伝えられる。道路の南は三ヶ野山遺跡(赤生)で、西へ進むと瀬戸ノ口から北へ約800mに仏教講の碑がある。

瀬戸ノ口を過ぎると南に開けた畠地に大萩古墳がある。

ビジネスホテルの後から岩牢城跡の麓の山道や烟道を進むと旧岩瀬橋の上流に出る。

川を渡り小林へはいると永仁之碑があり、少し進むと井川で、更に進むと国道268号線に出る。ここから約1.5km南に岩戸神社がある。この付近に松並木があったと言われ、ここから小林市街地区西端の壳子木まで約6.5kmは、旧街道が整備されて国道268号線となっている。国道北側にはいった所は水流追古墳で、そこから北方約0.5kmほどの地点に天文10年(1541)の六地蔵塔があり、その南西の抹香寺墓地には天文3年の笠塔婆がある。

国道の坂を上りつめると南側に家畜市場(旧競馬場)がある。この街道沿いに戦時中まで松並木が残されていた。しばらく西へ行くと都城・高原方面からの国道221号線と出会い、ここから熊本県人吉市までの国道は221号線となる。この分岐点から小林の市街地で、坂を下ると街道は上町を経て本町へとまっすぐのびている。

本町は昭和3年までは五日町と呼ばれ、江戸時代以来の小林の商業の中心地である。上町の宮崎交通営業所を通り過ぎた交差点の北約800mに小林地頭館跡があり、そこから北東約500mの小高い丘が小林城跡で、付近には大手橋・水の手橋や向江馬場・下之馬場などの地名も残っている。館跡の西約800mの小林高校裏に伊東塚がある。

交差点を西へ進むと通町を経て西町に入る。この界隈を古老たちは、「くっづし」(縁通)あるいは「くずしば」と呼んでいた。少し高台になる所をくり通して道を通したからであろう。

西町入口から約1kmほどで壳子木交差点に着く。

(4) 小林から球磨越へ

街道は吉都線の踏切を越えて十三塚へと上る。十三塚は古墳のある所であるが、現在は畠地から住宅地へと変わりつつある。この街道沿いにも松並木がそびえていた。西進して下り坂で踏切を越え、古いめがね橋の石水橋の手前から畦道を川添いに進み、橋の100mほど上流を渡ると墓地の西側で国道221号線に出会う。ここから飯野の大平付近まではほとんど旧街道が国道として整備されている。しばらく西へ進むと西ノ原交差点である。壳子木踏切からここまで約4kmで、ここから北へ0.5~1kmの地帶が^{かんなわ}観勝と調練場で背後は霧島連山を一望におさめる高台である。頃諸(勧請)は昔の人々が霧島の神を礼拝したところと伝えられている。調練場は嘉永6年(1853)12月島津齊彬が領内巡視の折、この地に小林近在の郷士たちを集めて調練をしたのでこの名が出たといわれている。

西ノ原交差点から国道221号線を更に北西に進めば、約2.5kmでえびの市の茶屋平になるが、この途中左手約1kmのところに粥餅田がある。西ノ原街道は現在沿道修景公園として松並木も復活し昔日の面影を偲ばせる。

茶屋平から1.4kmほどで佐山に着く。ここは狗留孫の羽山寺の里房があった所で、佐山から約2kmの地点大平バス停北側の畠中に小塚があり、春日大明神を祭っている。この付近に一里塚があったと思われる。街道はここから少し

西へ進み、国道221号線から北へ向い、剣神社の後からえびの市役所飯野支所前に出る。支所は飯野地頭館跡で県指定天然記念物のいちょうの木がある。

支所から北へ約500mに飯野城跡、北東約500mに長喜寺がある。支所前から西へ進むと飯野橋のたもとで再び国道221号線に出合うが、その手前の小坂の上り口が参勤交代の折槍倒しの木戸のあった所である。

国道221号線をよこぎり川内川の南岸の道を進むと飯野橋の下流約300kmの地点が渡し場のあったところである。川を渡り前田の集落から約1kmに仕置塚がある。ここから南西約800mに香取神社がある。

仕置塚から約1.5km進むと国道221号線に出る。この約400m北東に諏訪神社があり、国道を南へ約500m進むと二十里橋である。橋の西のたもとから北へのびている道は球磨間道の一つで約4km上った所で肥後街道と出あっている。この二十里橋付近にも一里塚があったと思われる。橋を渡れば加久藤の松原地区で、右側の山は加久藤城跡である。

街道は松原の集落西端の交差点で国道221号線を北へ向い、約2kmで榎田関所跡へ着く。ここから北西約800mに彦山寺跡と板碑がある。

榎田関所跡を更に北東に進むと険しい山道となり、ほとんどまっすぐに上る急勾配である。他国者の侵入にそなえわざと難所に陥道を設けたと言われている。約3km上ると番屋跡に着く。ここは標高800mの地点で、先ほどの二十里橋からの間道はここで出合う。周囲はうっそうとした密林であるが、200mぐらゐのこの茶屋跡だけは背たけほどの芽が茂っているだけである。

ここから山の中腹を約2km下ると藩境で、明治40年の飯野村と球磨郡藍田村との境界石柱が立っている。この道を下れば大畠を経て旧相良藩人吉城下へと達する。

4. 街道沿いの文化財

佐土原町〈宮崎郡〉

① 佐土原茶屋跡

佐土原から仲間原へ上る坂の途中の北側の小高いところにある。

この街道を今から肥後方面へ向う人たちは、この茶屋で佐土原への名残りを惜しぇんだろうし、逆にはるばるここへたどり着いた人たちはやっと着いたという安堵感で旅装を改めたことであろう。

西都市

② 花立寺跡

都於郡の町から六ヶ原への道をたどること約1.5kmで右手に小高い丘がある。

今はみかん畑になっているが、霧島信仰の場であったところである。天気のよい日遙か西方に霧島の山が望見される。

③ 八幡社六地蔵幢

花立寺跡より左手に池がある。池のほとりに八幡社があり六地蔵幢が立つ。

永禄4年辛酉の年に建てられたものでたいへん立派なものである。

④ 前門水の泉

八幡社から約1.5kmで今市に着く、街道の左手約20mに八木佐野公民館があり、ここに昔からの湧水がある。水質は非常に秀れていて、殿様が茶屋で休まれる時のお茶に用いたといふ。

⑤ 戻門跡

今市から約1.5kmの街道右手のゆるやかな坂になったところに戻門跡がある。

西南に走る街角、北西方向に設けた引込み道を戻門（曲り門）と言い、ここに番所があった。

番所跡の礎石と引込み道は今なおはっきり残っている。

⑥ 藩境石柱 ④

戻門跡から300mほど南西に進むと県道、西都・高岡線と交差する。県道をよぎって更に30mぐらい進むと左手竹藪の中に藩境石柱が立っている。

碑には「從是東西北佐土原領」とある。高さ1.7m、一辺22cmの四角柱である。

国富町<東諸県郡>

⑦ 六野原古墳群

藩境石柱からしばらく畑中の道を進むと六野原に出る。六野原台地面積は約150ヘクタールでもと原野であったが、今は開墾されて畑となっている。

古墳12基が県指定跡に指定されていたが昭和17年に飛行場設置のため移転改葬された。その際27基の地下式古墳が発見されている。

街道は畑の中を真直北東から南西へ抜けていた。

⑧ 地蔵寺

六野原から更に南西に進むと吹上に出る。伊佐生と麓への分岐点から右手の坂道を下ると地蔵寺がある。

地蔵寺は曹洞宗の寺院で、高鍋大平寺の末派という。境内に「元亀三年（1572）壬申六月二十三日龍巖光金憲定門盡位孝子教白」と刻まれた古い墓碑や六地蔵幢がある。なお墓碑は木崎原合戦で戦死した伊東又次郎のものである。

⑨ 伊佐生番所跡

分岐点の左の道を下れば三名籠に至るが、この分岐点には大きな松の木があったという。ここから少し先、道が急に曲った所が番所跡で戻り門といつた。

この番所跡を挟む北側と南側が伊佐生城跡であるが、こちらの方が面積が広い。番所跡も城跡も北、又は南が急な崖となっている。ここからは霧島山も展望出来、八代城跡、高岡の久津良城跡も見える。

日向地誌によれば「六野原の南畔・都於郡の住郷を夾む。城而て四区となる其南なるは三名村にまたがる」とある。

⑩ 万福寺

本庄台地の東端大字本庄犬熊にあり、天台宗總本山延暦寺の直末で、山号を犬熊山と称する。本尊は薬師如来、寺伝によると、この本尊は宗祖伝教大師の作で仏堂も同大師の創建になるという。

なお当寺には国指定の重要文化財「木像阿弥陀如来及び両脇侍像」がある。

⑪ 義門寺

万福寺から旧街道を西へ約1km行くと左手に本庄小学校があり、そのすぐ前が義門寺である。

正平元年（1345）の創建で開基は直心源阿弥、この人から10代覺秀上人までは時宗、11代顯与和尚の代に淨土宗となった。伊東11代祐國の一族で細川小四郎義門が国富莊はかヶ所を領していたとき境域を広め、仏堂を改築してはじめて東王義門寺と称した。又この寺には天正15年に豊臣秀吉の九州征討のとき、羽柴秀長が本陣を構え軍の乱暴を戒めた禁制文書が保存されている。

⑫ 剣柄稻荷神社

義門寺から西に進むと高岡道との交差点に出

る。更に西にまっすぐ進むとまもなく右手に剣
舟船荷神社がある。普通は剣の塚とよばれ、古
貴の上に奉祀されている。鎮祭は景行天皇の12
年壬午1月あるいは同天皇の32年壬寅とい
う。神倭盤余彦命、彦稚阪命を祭神としてい
る。境内には楠、杉、櫻等の古木がある。

③ 宗久寺

稻荷神社から更に西進すると本庄中学校前に
ある。宗久寺は本庄中学校の運動場に南接して
て、県道宮崎・須木線の真上にある。眼下に本庄川の清流があり、川添いの田園や集落
が一望の中におさめられる。

この寺は真宗西本願寺派で本尊は阿弥陀如来
で宝永2年(1705)3月創建の創建とい
う。境内にある碑文によると国富のみならず綾
高岡・紙屋・瓜生野の各地に門徒を有したよう
である。

④ 森竹神社

本庄中学校から西へ約2.5kmで森永に着くが、
街道北側に森竹神社がある。

地主大名神を祭神とする森永神社と大將軍を祭
神とする竹田神社が大正3年合祀されたものであ
る。

⑤ 町<東諸県郡>

⑥ 八坂神社

綾町の御嶽から南側の街道を西へ約600mで
八坂神社である。

祭神は素戔鳴尊、稻田姫命、八柱御子神三柱で
玉國社とも呼ばれ境内に二十三夜石、田の神、庚
子塔がある。

⑦ 亜都駅跡

八坂神社より西へ約200m左へ曲ると、亜都
駅跡があり石柱が建っている。石柱には「亜都驛

址」と刻まれ駅跡の名残を残している。

肥後街道と関係のある延喜式の駅は、当磨(西
都市妻)・亜都(綾町)・野尻(野尻町)・夷守
(小林市)・真所(えびの市)の5駅である。

⑧ 大將軍神社

亜都駅跡の西約1km、本庄川(旧綾南川)北岸
に中川原公民館があり、その東側に大將軍神社が
立つ。又境内には六地蔵壇、田の神像もある。

大將軍神社は、綾北川と、綾南川の2か所に建
っていたらしいが、ここのは南の大將軍である。

祭神は保食神、経津主命、事代主命の三神で五
穀豊饒を祈願していたが明治5年綾神社に合祀さ
れた。現在「大將軍神宮」と刻した厚板を残す。

⑨ 元宮神社

綾町から本庄川をこえ南岸沿いに西に進むと15
kmほどで元宮神社である。

ここは二反野原への山道の入口に当る。境内に六
地蔵壇、石仏、田之神像がある。明治100年記
念碑には次のような記述がある。「今より、凡三
百年前造は綾神社は此所に鎮座されていたが、流
鏑馬があり、或年騎手が、人馬諸共馬場尾の池に
沈んだので今の地に御遷座になり、その古跡が元
宮神社である。」

⑩ 一里塚跡

元宮神社から今は山道と化している旧道をたど
ると1.3kmほどで平地に出る。そこが二反野原で
その左側に一里塚跡がある。地図上でも紙屋の漆
野原一里塚からちようど一里である。

⑪ 二反野茶屋跡

駿様の休憩場といわれた茶屋跡は現在、徳廣氏
の屋敷になっており、近くに二反野公民館がある。

⑫ 松並木の古株(頬越)④

二反野から頬越渡に進む途中の山中には松並木
の古株が残っており、旧街道の面影が偲ばれる。

高岡町 <東諸県郡>

② 濱越渡

二反野茶屋跡から山中をかき分け下ることおよそ 1.5 Kmで前之名川上流の濱越渡にさしかかる。渡り口にはキンチクの竹藪が茂っている。この渡をこえて紙屋へと進む。(キンチク……蓮葉竹)

③ 濱越、大將軍神社

濱越の渡しの北西約 600m に濱越大將軍、南東約 400m に田の平大將軍神社がある。

④ 田之平大將軍神社

田の平大將軍神社は、上の濱越大將軍神社が、「母の大將軍」と言われるのに対し、「子の大將軍」と言った。

野尻町 <西諸県郡>

⑤ 漆野原一里塚 (県指定史跡) ④

濱越渡しからつづらす川、九十九折の山道を 18kmほど進むと明治 25 年に建設された道路に出る。ここから田畠の中の道を西に進むとやがて左手に一里塚が見える。

⑥ 紙屋城跡 ④

漆野原一里塚から約 1km で新村の集落で、ここより南約 800m のところに城跡がある。東・西・南の三方は深い谷で絶壁となっており、伊東 48 城の一つである。

天正 5 年 1 月島津氏の攻略によって野尻城がおちんとした時、伊東義祐が紙屋まで出馬したが城に入れず都於都にしりぞいている。

⑦ 紙屋関所跡 ④

紙屋小学校の東北隅にあり、薩摩藩 9 門の一つで重要な関所であった。藩治の頃島津藩は関吏をおき旅を検察したところで現在古井戸を残す。又この辺りを旧町と言っている。

⑧ 石敢当(紙屋)

紙屋旧町を通る道路の左手丘の寺跡にある。も

とは三つ角に立てられていた。

⑨ 池之原一里塚 (県指定史跡) ④

紙屋新町から上の原の集落を通り 2kmほど上った池之原の街道左手にあり、漆野原一里塚から一里の地点である。近くに池がありはるか南西方には霧島連山が望見される。なおこの付近に赤生時代の住居跡の発見された痕がある。

⑩ 高松城跡

城跡は野尻大橋の北東天ヶ谷にあり、標高 264m の丘である。頂上は平坦で 20 人程人が入れる広さがある。

天正以前伊東氏が茂兵を置き、西方の岩手礼参と合図をしあった繋ぎの城である。

頂上に阿弥陀様があるので阿弥陀ヶ丘ともいう

⑪ 戸崎城跡 ④

高松城跡の西方にあり、野尻大橋からはダムをへだててま北に見える。

日向古述史によれば「永禄の頃は伊東家の将、肥田木四郎左衛門尉守たりまた、伊東四十八城の一つなり」とある。

⑫ 光運寺角の六地蔵 ④

野尻町、新地馬場より、大王神社への道と国道 268 号線の交差点の角にあり、安永 9 年 (1780) に建てられた。

⑬ 野尻城跡 ④

六地蔵壇のある交差点 (光運寺角) から南西 1km のところにある山岡で四面渓谷がせまり要害となる堅固である。

城は 2 区からなり西北は本丸、東南は二の丸であった。永禄、天正の頃は福永丹波守が城主で伊東 48 城の一つであった。天正 5 年 (1577) 丹波守は島津に通じ義久の軍を城にひき入れて、伊東家滅亡の原因となった。

⑭ 高都万神社

光運寺角から北へ 0.5km のところにある。

昔は、新地馬場にあり大王権現といった。

猿田彦命を祀る。旧郷社で仁安3年1月2日創立されたという。

⑨ 野尻石窟仏（県指定史跡）

光運寺角から東へ約500m現在国道268号線下にある。

岩堂薬師（いわんどやくし）ともいわれ、凝灰岩を穿ってつくった石窟仏である。

石窟は高さ138cm、幅184cm、奥行166cmで、正面に薬師如来像、右に日光菩薩立像、左に月光菩薩立像を配し、これを廻って十二神将立像、薬師如来に僧座像が左右にある。彩色が施され朱痕をとどめている。鎌倉時代の作といわれる。

⑩ 伊集院忠真の五輪塔

光運寺角から国道268号線を西へ約500m国道北側にある。

慶長4年（1599）都城八万石の領主伊集院幸侃が伏見で島津忠恒から手打ちにされたため、子の忠真は都城外12の砦を築いて都城の乱をおこした。しかし、徳川家康の調停で和睦し、忠真是頼性（えい）2万石に転封されたが、翌々年穩佐の住人押川・瀬賀の二人により鉄砲で殺された。

夜川松の墓地には押川・瀬賀の二人の供養碑がある。

⑪ 野尻村古墳（九ノ塚古墳）（県指定史跡）

小林市に至る国道268号線と高原町への道路の分岐南側にある。

県指定野尻村古墳は2基あって九ノ塚古墳はそのうちの1基である。

⑫ 隣原

九ノ塚古墳の西方約1kmにある隣原の地は天正15年（1587）豊臣秀吉の九州征伐の時羽柴秀長の軍がこの地に布陣した所であるという。

⑬ 長倉四郎兵衛の墓

八尾神社の東方約700m栗須と大沢津の集落

の中間にある。薬師如来堂の境内に長倉四郎兵衛の墓がある。

四郎兵衛の残した元亀3年（1572）は木崎原合戦のあった年で部将の長倉四郎兵衛はこの合戦で戦死している。

薬師堂の上の山には、木脇伊東氏のものと思われる五輪塔がある。

⑭ 八尾神社

街道沿いの集落三ヶ野山の北方大沢津にある村社で、昔は八王権現といわれ山頂に社殿があった。

明治になって八王神社、明治18年に八尾神社と改称した。伎佐具姫命を祀る。

以前、社殿のあった山頂後方は内木場といい弥生遺跡が附近には踏査（たたら）跡がある。

⑮ 仏飯講の碑

街道沿い瀬戸の集落から北へ約800mのところにある。

島津氏の浄土真宗禁制にともない地区民が仏飯講を設け秘かに法燈を守って来た歴史が刻まれている。

その脇には、康申供養の碑や殉教者四元次郎右衛門の墓もある。

⑯ 野尻村古墳（大萩古墳）（県指定史跡）

瀬戸之口を過ぎると南側に畠地が広がる。当地にある大萩古墳は南に雄大な霧島連峰を一望のうちにおさめる景勝の地である。

県指定野尻村古墳2基のうちの1基でこの古墳の近くから昭和48年から53年にかけての農地保全事業により35基の地下式横穴墳が発掘調査されている。

⑰ 岩串礼城跡

瀬戸之口の北西約1km、野尻町と小林市との境にあり岡城ともいわれた。城跡は山の尾根が突出したところにあり40～50人は収容できる広さである。

天正以前伊東氏が戍兵を置いて東の高松城と連絡をと/orあった。

小林市

④ 永仁之碑 ④

瀬戸ノ口の次の集落は下ノ平であるが、その手前岩瀬川に架かる岩瀬橋の近くに永仁之碑はある。

永仁元年(1293)橋勘定のために建てられたもので小林市内では最も古い碑である。

⑤ 岩戸神社 ④

永仁之碑から旧街道をしばらく行くと国道268号線と合流する。合流点から約1.5km南東に岩戸神社はある。

祭神は、手力男命であり、「大宝元年(701年)1月5日奉崇」と社伝にある。

大昔は、岩瀬川をはさんで対岸の野戸町岩戸(西柿川内)にあったが、洪水のため流されたので、東岩瀬に遷座し、更に野火のために社殿が焼けたので、約200年前現在の地に遷座した。

⑥ 水流追六地蔵(県指定史跡) ④

国道268号線の国鉄バス停「競馬場」から北へ約500mのところにある。

天文10年(1541)に立てられたもので、もとは抹香寺(廃寺)の境内にあった。

⑦ 小林地頭館跡 ④

街道は小林市街を東から西へよぎる。地頭館跡は宮交小林営業所から50m先の四つ角を約800m北上した所にある。現在上井氏の屋敷で門を残す。

⑧ 小林城跡 ④

地頭館の北東約500mに丘陵がある。西、北、東の三方は石氷川で囲まれ、南西は湿地の要害で西側を大手口東側を水之手口と称した。

元、北原氏の居城で永禄5年(1562)北原八郎兼守が死ぬと伊東氏の所有するところとなり、

米良築後守に守らせたが天正5年(1577)伊東氏没落後は島津氏の有に帰した。

⑨ 伊東塚(県指定史跡)

小林地頭館跡から西へ500m、小林高等学校裏手にある。

元亀3年(1572)伊東・島津両軍が木崎原(えびの市飯野)で合戦を行ったが島津方が伊東軍の戦死者を埋葬したのが伊東塚である。又同所には伊東加賀守祐安を打取った薩摩五代勝左衛門友慶の子孫が加賀守の靈魂を慰めるために慶安3年(1650)に建てた板碑や文化14年(1817)年に建てられた石碑がある。

⑩ 翳餅田の古戦場

茶屋跡の手前、三本松バス停の南西約800mに碇餅田の古戦場がある。

元亀3年(1572)島津義弘が伊東軍を木崎原に破り、なおも逃げる敵を追ってこの地まで来ると、伊東氏の駿将袖木崎丹後守が唯一突とばかり槍をしごいて義弘に突きかかってきた。馬が驚いて前膝をついたので義弘は危く一命を拾ったという。

なお、飯野の姫女子がかゆを持って島津軍のねぎらいに来たのでこの名がある。

えびの市

⑪ 茶屋平の茶屋跡

小林市西之原から国道221号線を北西へ2.5kmほどところにある。昔、駿様の道中にお茶を差し上げたところだという。この付近は小林市の境界でここから右手の道をたどると上大平に出る。

⑫ 羽山寺里房跡

茶屋平から国道221号線を西へ1.4kmほど行ったふじ坂の旧街道を下る途中にある。

狗宿孫山多宝院羽山寺(端山寺)の里坊跡で歴代住職の墓がある。

③ 春日大明神 ④

国道221号線大平バス停北側の畠中の小丘上にある小祠で藤原氏の氏神を島津義弘が観請して祀ったものである。なおこの付近に一里塚があつたと思われる。

⑤ 剣神社 ④

街道は春日大明神前から少し西へ西へ行った地点から右折して剣神社後方に出てる。

この宮は北原左馬頭に祀る。北原左馬頭は北原氏の始祖であるが、昔左馬頭が馬闘田城主であつた時伊東氏が来攻し飯野で合戦を行つたが、左馬頭は敗れて割腹した。

里人は弘治3年(1557)此の地に宮を建てて、左馬頭を祀り、毎年11月23日に祭りをしてきた。

⑥ 飯野地頭館跡

街道右手にある現在のえびの市役所飯野支所は当、飯野地頭館のあったところである。

地頭館は江戸時代における地頭の詰所で、普通は地頭仮屋とよんでいる。また、前の道角には、月待供養碑(享保10年)と石敢当(元禄年間)がある。

街道は飯野の町の北側を川内川に沿って西上する。

⑦ 飯野のイチョウ(県指定天然記念物)

このイチョウは地頭館跡にそびえ立つ樹高600年、根幅より太さ9.6m高さ19.2mで、西南戦争で兵火にかかり、幹の中部に焼けた空洞が残っている。

又イチョウの根元に、島津義弘の長子で加久藤成に生れ、8才で天死した鶴寿丸の供養碑がある。

⑧ 飯野城跡

飯野支所(地頭館跡)から北方約500mのところにあり亀ヶ城又は鶴亀城ともいいう。山岡によつて築かれ、高さ約40m、南は川内川に臨み、北

は押建山を負うている。城割は三区となつてゐる。

建久(1190~)の頃真幸太郎、日下部重兼が此の城におり五代の孫貞房の時、北原左兵衛がこれにかわつた。

永禄5年(1562)北原氏亡びその後は島津の有となる。

⑨ 長善寺跡

飯野支所(地頭館跡)から北東約500mのところにあり、兜率山長善寺といい、曹洞宗、能州總持寺の末派で近郷に50余の末寺を有し、実峰派の小本寺であったが、明治3年廃寺となつた。

開山は明窓妙光和尚、応永22年(1415)に入寂した人で、墓が残つてゐる。

なお、この寺では、享禄3年(1530)「碧巖錄」という聚分額略の版本を出版してゐる。

⑩ 仕置塚の石塔 ④

前田から大明寺に出る旧街道南側の田んぼの中にある、中世から幕末にかけての仕置の場所であった。

以前は阿弥陀堂もあった。

⑪ 香取神社

仕置塚から南西約800m上江地区今西にある。社記によれば白鳳2年(674)藤原鎌足の命によって創建したものと伝えられ、経津主命を祀る。

当時加久藤や馬闘田にも神社が創建されたが当社を一の宮香取大明神と称したといふ。

明治3年現社名に改められた。

⑫ 踏訪神社

国道221号線沿いの大明司にある。祭神は、櫛門戸神である。

室町時代の建立で、延喜式絵巻がある。

⑬ 二十里橋

後川内川に架かる二十里橋は旧飯野郷と加久藤郷の境界である。鹿児島城下から20里とのと

ころにあるので二十里橋と名づけられたという。この橋を渡って右(北)へのびる道も球磨間道の一つで4kmほど上った標高800m付近で肥後街道に結ばれる。

⑥ 加久藤城

二十里橋を渡れば松原地区でこの集落の北500mの丘の上に加久藤城址はある。四面絶壁で天險の城である。

永禄7年(1564)島津義弘が飯野城に入った後この城を築いて夫人広瀬氏をここに置き川上三河守忠智に守らせた。

元亀3年(1572)伊東義祐が部将にこの城を攻めさせたが成功しなかった。

元は久藤城といつたが、義弘は「加」の字を加えて「加久藤城」とよぶようになった。

⑦ 榎田関所跡(県指定史跡)

松原地区から右折し糸余曲折の街道を2kmほど上った榎田地区的牧の原にある。現在バイパス道がすぐ下を通る。義摩藩の9関所の1つで、人吉相良領に通ずる本街道で加久藤越筋にあたり重要な関所であった。当時「球麻口番所」といった。

関守として14戸の番士を定住させた。

この球磨越は、幕府隠密の侵入を極度に警戒したため最も難所に道を通した。

⑧ 燕山寺跡

榎田関所跡より北西へ約800mのところに彦山寺跡がある。悉皆院彦山寺といい、真言宗・飯野白鳥山満足寺で御隱居所とされていたとう。

大正7年(1918)光嚴法印が十一面觀音を安置すると伝えているが寺院繁栄の面影は、墓石と板碑群に残されている。中でも県指定の板碑には、正中2年(1325)宝光が、師、覚然の33年忌の供養を営む旨の願文が書かれている。

⑨ 番所跡

榎田関所跡から蛇ヶ淵を経て山中の険道を4kmほど上った標高800mのところにある。

茶屋跡は広さ約200m²で、周囲は疊なお暗い林地帯であるが、ここだけはカヤが繁った平地である。昔、番所があり藩に用件のある上客がここを通過する毎に島津氏が茶屋を設けて懇に接待したところと伝えられている。下の集落の人は「茶屋」とよんでいる。二十里橋からの間道もここに出あっている。

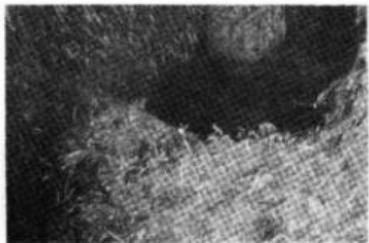
⑩ 境界石柱

茶屋跡から腹を約2km下った地点に熊本県藍田村と宮崎県飯野村境の石柱が立つ。藍田村は現在人吉市である。

高さ80cm 幅20cmの石柱で、

「熊本県球磨郡藍田村境界標」

「記念 明治四十年九月建設」と刻まれていた。



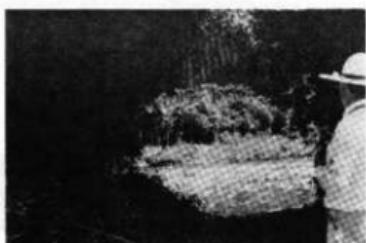
④ 前門水の泉
今なお、昔ながらの水が湧き出て
当時を偲ばせる。



⑤ 藩境石柱
竹藪の中のあまり人目につけ
かない所に立っている。



⑥ 松並木の古株
二反野～瀬越渡間の山中に今も
松並木の古株が散見される。



⑦ 瀬越渡
渡り口にはキンチク竹の藪があり、
当時を偲ばせる。



⑧ 亞柳駅跡
亞柳駅跡に石柱がたち、
名残りをとどめている。



㉔ 田之平大将軍神社
潮越大将軍の母に対し、こちらは
子の大将軍と呼ばれている。



㉕ 漆野奈一里塚



㉖ 紙屋城跡
漆野一里塚より約1kmで、伊東48城
の一つといわれている。



㉗ 紙屋関所跡
薩摩藩9関の1つといわれ。現在
は古井戸を残すだけである。



㉘ 池之原一里塚



⑩ 戸崎城跡
野尻大橋からダムをへだててま北に見える。



⑪ 光蓮寺角の大地蔵
国道 268 号線の交差点
にあり、安永 9 年に建てられ
たと言われている



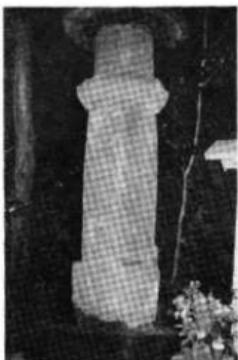
⑫ 野尻城跡
2 区からなり、西北は本丸、東南
は二の丸であったと言われている。



⑬ 永仁之碑
永仁元年に橋勘進のために立てられ
たと言われている。



⑭ 岩戸神社
神所前の仁王像は江戸時代中期の作
といわれる。



⑯ 水流追大地蔵
もとは抹香寺（魔寺）
の境内にあった。



⑰ 小林地頭館跡
館跡の一角で、現在上井氏宅に門
が残っている。



⑱ 小林城跡



⑲ 春日大明神
飯野の大平バス停北の小坂にある。



⑳ 剣神社
北原氏を祀るが、社殿は新しくつく
りかえられた。



⑤ 仕置塚の石塔
中世から幕末にかけての
仕置場であったといわれる。



⑥ 加久藤城跡
四面絶壁で天陥の城であった。



⑦ 櫻田関所跡
薩摩藩 9 関所の 1 つで、当時は
「求麻口番所」といった。



⑧ 境界石柱
明治 40 年 9 月建設と
刻されている。



⑨ 彦山寺跡

ま　と　め

本県では、昭和52年度に国の補助を受け、豊後・高千穂・椎葉等5街道、昭和53年度に、米良・鯰肥・鍋戸・志布志の4街道、そして、昭和54年度には、肥後・薩摩の2街道に諸塙間道の調査を実施した。これで一応県内の主要街道の調査は終了したわけである。

歴史の道調査は、九州では本県が最初である。当時、芭蕉が通った奥の細道や熊野参詣道、それに中仙道のような著名街道の調査はなされていた。

しかし、県内の主要街道の全てを調査し、街道の歴史的背景、街道の果した役割、それに街道沿いの交通関係史跡等を明らかにする調査はなく、このような調査に取り組んだのは本県が初めてであった。

調査初年度は、国が伝統的建造物群選定に先だって調査を実施したように、歴史の道の指定、又は選定に先だっての事前調査というふうに受け取っていたが、文化庁の考えは、このような局所的な考えではなく、全国を全て調査し、南は鹿児島から北は北海道まで、全国自然歩道のように、全国歴史の道を設定するための基礎調査であり、非常にスケールの大きい調査であった。

このように、全国を一巡するような歴史の道が整備されるのはまだまだ先のことであろうが、調査を実施してきた本県にあっては、この調査を幾に街道沿いの史跡に標示や説明板をたてたり、歴史の道歩こう会が催されたり、各市町村において街道保存、又は活用に取り組みをみせるようになったことは、大変喜ばしいことである。

県としても、今後、貴重な文化財として歴史の道の保存、整備等に努めていかねばならないと考える。

主要街道の調査は一応なされたわけであるが、間道や支道の調査が残されている。したがって、これらの調査は、今後も国の補助を受けて継続するか。県独自で調査を続けていくかする必要がある。

調査の組織

1. 調査主体 宮崎県教育委員会
2. 事務局 宮崎県教育委員会

教育長	四本 茂
教育次長	国府 重則
#	坂口 鉄夫
文化課長	日高 三好
課長補佐	串間 実
庶務係長	田中 君彦
主任主事	王原 敦美
文化財係長	山下 正明
主任主事	立元 久夫
#	小森 連郎 (事業担当)
#	今村 正人
#	岩永 哲夫

3. 報告書監修

石川恒太郎 (県文化財保護審議会委員)

4. 調査員

街道名	氏名	役職
薩摩街道	久枝 敏	県文化財保護指導委員
	阿万敬一	清武町文化財保存調査員
	児玉三郎	県文化財保護指導委員
	田上未雄	庄内小学校教諭
肥後街道	真方良徳	県文化財保護指導委員
	井上政造	"
	園田 康	加久藤小学校尾八重野分校教諭
諸塙間道	加藤宣夫	飯野小学校高野分校教諭
	甲斐重光	諸塙村職員
	深水 洋	諸塙中学校教諭

宮崎県「歴史の道」調査報告書

昭和55年3月31日

編集 宮崎県教育庁文化課

発行 宮崎県教育委員会

宮崎市橋添東1丁目9番10号

印刷所 須々野印刷

